

設立5周年記念「第5回狭山市民芸術祭」を迎えて



狭山市民文化団体連合会会長
第5回狭山市民芸術祭実行委員長
小高 誠太郎

本日は、第5回狭山市民芸術祭にご来場くださり誠にありがとうございます。
狭山市民文化団体連合会は、市内の文化団体の交流を図り、市民文化の向上と創造を目指し、平成11年9月26日に設立いたしました。以来、狭山市をはじめ各方面ならびに本会の賛助会員の皆様にご支援・ご援助を賜っておりますことに深く感謝を申し上げます。お陰をもちまして、今年度設立5周年を迎えることができました。

顧みますと、あっという間の5年でした。市民芸術祭の初回は、大変苦勞をいたしました。幸い、さねとうあきら先生が、「狭山いまむかし」の朗読劇を書いてくださり、加盟団体の皆様には大変ご無理をお願いいたしました。が、ご協力を得て創りあげました。まさに、各団体の持てる力がコラボレーションされた作品だと言えるでしょう。私は、このことが文化団体の目指す方向だと確信いたしました。テーマ《道・土・炎》のもと、展示もさまざまなジャンルの作品が一堂に会することが実現し、舞台とともに総合文化を創出した市民芸術祭でした。しかし、次回が立ち上がるか自信はありませんでしたが、そこが加盟団体の会員の意気込みの違いといひましようか、2回・3回と続くわけですが、第3回には狭山市民会館との共催になり、広報ならびに経費の面で大分助かりましたが、それにも増してそうした評価をいただいたことが私たちの活動の励みになりました。それぞれの回には、特記したいことが多くありますが、文化体験フェスタの成果を芸術祭で発表するようになったことです。市内の小学校をお借りして、小中学生を対象に加盟団体の会員が、伝統文化をはじめ様々な文化を体験できるフェスタを実施しておりますが、その成果を小ホールやホワイエ等で発表しております。

さて、今回は、《心が象(かたち)になるとき》をテーマとし、創造することを目指してきた文団連の活動を振り返るとともに今後の方向を探る芸術祭にしたいと考えました。まず、設立5周年記念企画としまして、初めて一般公募による「ヤングフェスティバル」を組み込み、若者の“音楽とダンス”の公演を通してヤング層の音楽活動の支援に発展させたいと思います。また、一般参加として、青少年美術育成会の受賞作品および高齢者による絵画の展示を加えました。

定着した内容としては「世代を超えて」であり、フェスタ参加の小学生から加盟団体会員までの幅広い層による公演です。また、大ホールでのプロ集団ツルサンズカンパニー構成・演出による「喜・怒・哀・楽・そして未来へ」は、加盟団体による5年間の集大成ともいえる舞台公演が期待できます。更には、市民会館全館に繰り広げられる展示とともに、茶席・香席も賑わうことでしょう。

終わりに、第5回市民芸術祭の開催にご尽力を賜りました皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



タイムテーブル	場 所		催し物
		小ホール	
	大ホール		ヤングフェスティバル
			「喜・怒・哀・楽・そして未来へ」
1階	エントランスホール		茶 席（有料）
	第2和室		香 席（有料：当日先着順）
	展示会場		各団体作品展示
2階	大・小ホールホワイエ		